

令和 7 年度第 1 回市民参加推進・評価会議 会議要旨

1 日時	令和 7 年 5 月 1 3 日（火） 午前 1 1 時 0 0 分～ 1 1 時 3 5 分
2 場所	大和市役所 会議室棟 1 0 1 会議室
3 出席者	委員 9 人（長谷部美由紀 委員（会長）、近藤憲之 委員、沓掛大乘 委員、 和泉純一 委員、東郷秀夫 委員、徳王好恵 委員、 平田美智子 委員、松田真弘 委員、南真美 委員） 事務局 4 人（未来政策部長、政策総務課長他 2 人）
4 傍聴人数	0 人
5 議題	（1）議事 ①令和 7 年度市民参加手続の実施予定について ②その他
6 議事要旨	・事務局より、前回配布した令和 7 年度市民参加手続の実施予定及び令和 7 年度審議会等委員の公募実施予定の変更箇所について説明した。 ・前回会議の内容を基にまとめた答申案について意見交換を行った。 ・今回会議での議論を踏まえ、会長と事務局で答申内容を調整し、委員に確認した後に市長に答申を行うこととした。
7 会議資料	・資料 1：令和 7 年度市民参加手続の実施予定に対する総合評価について（答申案） ・資料 2：令和 7 年度市民参加手続の実施予定（修正） ・資料 3：令和 7 年度審議会等委員の公募実施予定（修正）

【主な意見等】

- 委員：付帯意見の二つ目について、「接客業に携わる方」だと対象が限定的に感じる。地方公共団体におけるカスタマーハラスメントの実態について、総務省の調査結果によると、自治体職員の約 4 割が受けたことがあるとのこと。飲食業に携わる方のみならず、公務員もカスタマーハラスメントの対象となっていると考えられるため、この観点も含める必要があると考える。
- 委員：病院や駅などでもカスタマーハラスメントに関する注意喚起を見かける。そのようなところで勤務する方も含むような表現がよいのではないかな。
- 委員：LINE や X を活用したことによる実績を明確化してみてはどうか。公募を知ったきっかけについてアンケートを取るなどをすれば、効果的な周知方法に向けた改善ができると思う。
- 委員：PS メールが廃止され、市公式 LINE に移行したが、これまで PS メールを利用していた市民が全員移行するわけではないと思う。LINE を利用しない方たちに向けた周知方法を考えるとともに、広く情報発信できる土台づくりが必要であるとする。

- 委 員：付帯意見の三つ目について、大和市の特性として外国人市民が多いので、そのような方たちにもわかりやすい情報提供が必要であると考えます。
- 委 員：昨年度の答申書を確認すると、SNS の活用など今回の答申案と類似した内容が記載されているが、前回の答申を受けて変わったことはあるのか。
- 事 務 局：前回の答申は全庁に周知啓発しており、SNS を活用して情報発信する部署は増えている。その結果、委員の公募においては、公募人数を上回る応募も増えており、一定の効果があったと考えている。
- 委 員：付帯意見の一つ目について、「審議会等の委員の公募の際には」と、内容が限定されている。他の市民参加手段についても、多くの市民から意見を聴く手段として、SNS を活用した情報発信を行ってほしい。
- 事 務 局：全市民を対象に意見を募る手段として、意見公募手段があるので、それを含めた表現に修正する。
- 委 員：高齢者の立場からすると、カラー刷りになった広報やまとはとても親しみやすい。また、全戸配布になったことにより、市の情報を収集しやすくなったので、市民参加がしやすくなったと感じている。
- 委 員：インターネットを活用する一方で、高齢の方や障がいのある方にも情報が伝わるよう配慮すべきことを、付帯意見に入れてもいいのではないか。
- 事 務 局：本日出た各意見を、付帯意見に反映する。

以上